

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	その他指導内容や指導方法において特徴ある工夫が行われている実践事例
-------	-----------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

広島県竹原市

○学校名

竹原市立竹原小学校

○学校のURL

<http://www4.ocn.ne.jp/~takesyo/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】第1学年・第2学年・第4学年・第6学年 各1学級
第3学年・第5学年 各2学級 【特別支援学級】1学級 【合計】9学級

○児童生徒数

【全児童】229名（平成24年11月1日現在）
（内訳：第1学年36名，第2学年34名，第3学年42名，第4学年36名，
第5学年45名，第6学年36名）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
「意欲的に学ぶ子どもの育成」
<めざす子ども像>
やる気いっぱい，やさしさいっぱい，元気いっぱい
【人権教育に関する目標】
「自他を大切にする子どもを育てる」

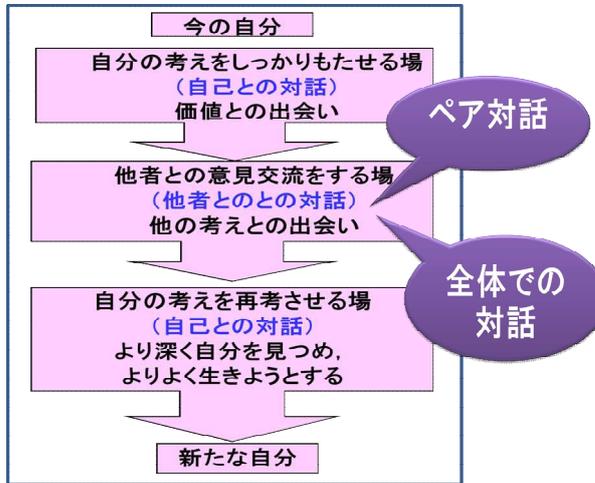
○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】
他者との意見交流から学び合う子どもを育てる
—「対話」を生かした道徳の時間の指導の工夫を通して—
【「対話」を生かした道徳の時間】
○ 「自己との対話」「他者との対話」を位置づけた授業モデルの活用
○ 全体での対話における意見の磨き合い
・「対話」の仕方の系統表作成，活用
○ 自己との対話の工夫
・自己の考えの変容を見取ることができるワークシートの作成
【人権教育を基盤とした日常的な取組】
○ 友だちのがんばりやよいところを認め合う場の設定
○ 縦割り班活動
○ コミュニケーション技能を育てる取組

3. 特色ある実践事例の内容

【「対話」を生かした道徳の時間】

- 「自己との対話」「他者との対話」を位置づけた授業モデルの活用



- 自己との対話の工夫
 - ・ 自己の考えの変容を見取ることができるワークシートの作成

「どこかでだれかが見ていてくれる」ワークシート
5年()組 名前()

福本さんは、どんな気持ちできられ方の工夫を重ねていったのでしょうか。

友達との対話

自分の考えと比べながら対話しよう。その中で、自分に比べてよくる意見を簡単な言葉でメモしたり、印をつけたりしよう。

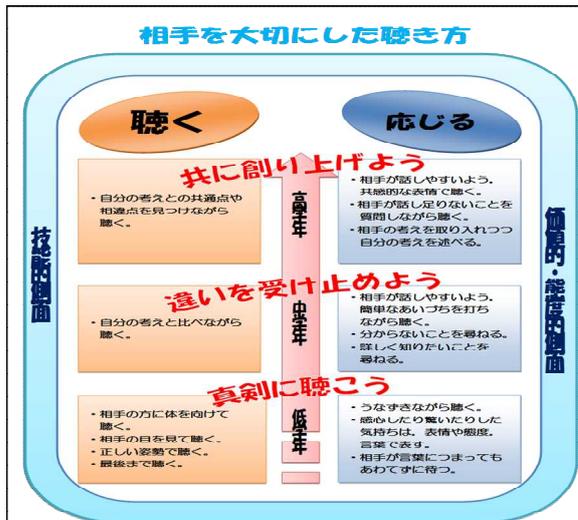
自己との対話

今日の学習を通して大切だと感じたことについて、自分の生活を振り返ってみよう。

自分を見つめ、自分自身に問い掛ける視点

- ・ 今日の学習で大切だと感じたことは...
- ・ 今までの自分を振り返ると...
- ・ これからの自分は...

- 全体での対話における意見の磨き合い
 - ・ 「対話」の仕方の系統表作成・活用



対話の仕方

ペア対話

- 1 きちんと向かい合う。
- 2 自分の考えが言える方から行う。最後まできちんと伝え合う。
- 3 考えを深めるポイントに気をつけて聞く。
なるほど。そういう考えもあるな。なぜ。どうして。もっとくわしく聞きたい。
- 4 聞いて考えたことを伝え合う。
「わたしの考えと～が似ています。(ちがいます。)」
「なるほど～だと思えます。」「なぜ～だと思えますか。」

全体での対話

- 1 考えを深めるポイントに気をつけて聞く。
- 2 自分の考えを伝えたり、友達にたずねたりする。

自己との対話

- 1 友達の考えをもとにして、自分の考えを見つめる。
- 2 3つの視点で考え、ワークシートに書く。
 - ① 今日の学習で大切だと感じたこと
 - ② 今までの自分をふり返って考えたこと
 - ③ これからの自分はこうしていきたいと思ったこと

- 人権教育を基盤とした日常的な取組
 - ・ 友だちのがんばりやよいところを認め合う場の設定



帰りの会などで、友だちのがんばりやよいところを互いに認め合う場を設定し、教室の中に掲示するようにした。



・ 縦割り班活動



全校児童を縦割りにした「なかよしグループ」をつくり，6年生をリーダーとして「なかよし遊び」や清掃活動に取り組んだ。



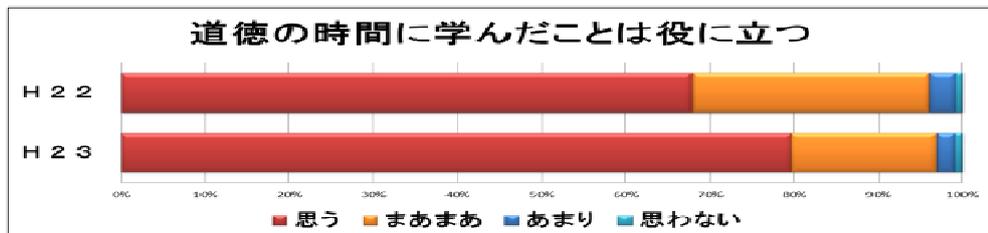
・ コミュニケーション技能を育てる取組

児童にコミュニケーション技能を育てる取組として、「コミュニケーションタイム」と「ジュニアレポーター発表会」を設定した。「コミュニケーションタイム」では，様々なスポーツやゲーム，対話活動を通してコミュニケーション技能を育てた。「ジュニアレポーター発表会」は学年の代表が全校児童の前で作文を発表する会で，全校児童が一堂に集まり，発表内容や態度を学び合う場とした。

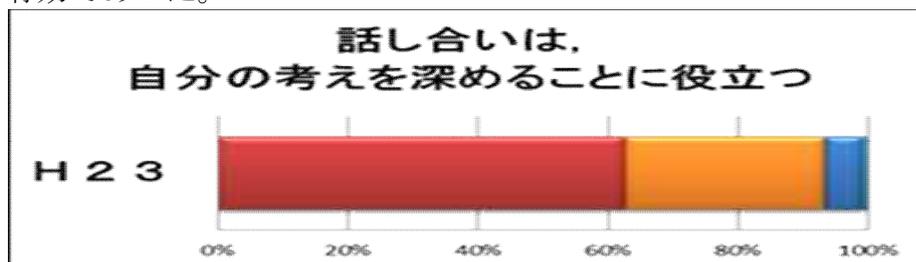
4. 実践事例の実績, 実施による効果

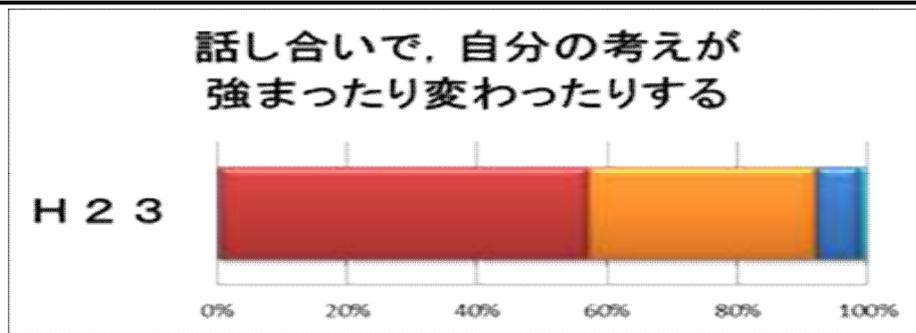
【人権教育の視点に立った授業改善】

○ 「対話」を生かした道徳の時間の指導の工夫に取り組んだ結果，「道徳の時間の勉強はためになる」という問いに対して，97%の児童が肯定的な回答であった。

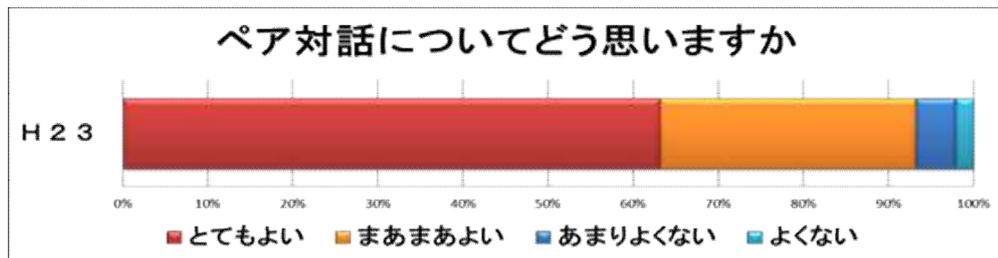


さらに，対話を通して自分の考えが深まったかということについては，4・5・6年生を対象にしたアンケートの結果から，多くの児童が「話合いで友だちの考えを聴いて，自分の考えが強まったり変わったりする」「話合いは自分の考えを深めることに役立つ」と感じていることがわかった。こうしたことから，「対話」を生かした指導の工夫は，児童の自他を尊重する意識や態度を育てることに有効であった。





- ペア対話については、そのよさを「全体では言いにくいことも言える」「一回聞いてもらうことで安心する」「自分とは異なる考えが聞ける」「すぐに聞き返せる」の4点に整理し、授業の中に効果的に取り入れることができた。



また、ペア対話を行うことについては、93%の児童が肯定的な回答であった。その理由として、「二人組だと自分の考えを言いやすい。」「相手に質問をしやすい。」「ペア対話の後であれば全体に意見を出しやすい。」といったことが挙げられている。ペア対話を通して児童は、互いの考えを受容的に聴き合うことで安心感が生まれ、全体での対話において発言の意欲が高まったことが、全体での対話の充実につながったと考えられる。

- 「対話」における技能的側面については、低・中・高学年それぞれの発達段階に応じた項目について、肯定的にとらえる児童が80%を超えた。こうしたことから、「対話」の指標に基づいた指導を行うことにより、児童は相手を大切に聴き方を意識することができるようになってきたことが分かる。

